

akane.

あかね

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

vol.53
2025 Winter

■ ロボットテクノロジーも心臓血管外科チームの一員に
回復後の生活の質を見据え、患者さんの負担が少ない様々な医療を提供いたします。



いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう



医療法人 あかね会

師走の候、平素より医療法人あかね会に温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。今回の『akane Vol.53』では、心臓血管外科の現在の取り組みをご紹介します。いま医療業界は、人材確保の難航、物価・エネルギー費の高騰、診療報酬の伸び悩み、働き方改革への対応など、さまざまな課題が山積しています。当法人では、経営の健全性を維持しつつ、診療の標準化・可視化、チーム医療の強化、選択と集中による投資を段階的に進めております。

当院の心臓血管外科は、冠動脈バイパス術・弁膜症手術・大動脈手術に加え、先天性心疾患にも取り組み、広島でも有数の実績を重ねてまいりました。診療においては心臓血管外科・循環器内科・麻酔科・小児科の医師、看護師、臨床工学技士など多職種が連携し、術前評価から退院後フォロー、かかりつけ医との情報共有までのプロセスを一本化し、患者さんにご家族の理解と納得を支える体制を整えております。小児領域では新生児から成人先天性心疾患まで一貫して対応し、小児科・新生児部門と協働して長期フォローを実施しています。

11月からは、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」によるロボット支援手術を、泌尿器科に続き心臓血管外科でも開始しました。拡大視野と高精度な操作性により低侵襲化が期待でき、出血や疼痛の抑制、早期回復に寄与する技術です。導入に際しては準備と研修を重ね、安全基準と手順を整備してまいりました。今後は多職種で適応を厳密に検討し、合併症リスクに配慮しながら症例を段階的に拡大していきます。術後は心臓リハビリテーションに加え栄養・服薬指導なども組み合わせ、生活再建まで伴走いたします。

厳しい環境下にあっても、診療の質と経営の持続可能性を両立させ、地域で完結する診療の要としての役割を着実に果たしてまいります。来たる年も変わらぬご信頼を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝を心よりお祈り致します。



あかね会

医療法人あかね会 講演会 を開催しました

2025年11月15日(土)西区民文化センターにて「医療法人あかね会講演会」を開催いたしました。医療法人あかね会主催としては初の講演会であり、就職活動中の学生の皆様およびそのご家族を中心に多くの方にご参加いただきました。

オープニングコンサートは、エリザベト音楽大学の学生さんで結成された「Lisaria」の皆さんにご出演いただきました。オペラ『椿姫』よりヴェルディ作曲「乾杯の歌」で始まり、全8曲を披露。ピアノ伴奏とともに、若さあふれる素晴らしい歌声が会場内に響き渡り、外まで届くほどでした。

基調講演では、RCC中国放送の田村友里アナウンサーをお迎えし、「夢に向かって、今 すべきこと」を演題にご講演いただきました。アナウンサーを志して取り組んだこと、就職活動での挫折経験、アナウンサーとしての一日のスケジュールやお仕事の裏話など、貴重なエピソードを交えてお話いただきました。田村さんの座右の銘である「奇跡を待つより捨て身の努力」は、どなたにも当てはまる素敵な言葉ですね。これからますますのご活躍を心より応援しております。



あかね会

企業対抗リレーマラソン
inひろしま 出場

9月23日に開催された「企業対抗リレーマラソン in ひろしま2025」に、医療法人あかね会から病院・訪問看護ステーション・介護事業所に所属する多職種のスタッフ26名が出場しました。

「あかね会チーム」と「あかね会手術室チーム」の2チームに分かれてタスキをつなぎ、全員が見事に完走を果たしました。普段は走ることのないエディオンピースウィング広島を駆け抜けるという貴重な体験に、途中、靴底が剥がれるというハプニングもあり、会場は笑顔と声援に包まれ参加者も応援者も大いに盛り上がりました。今回の大会では、日頃の業務で培ったチームワークを発揮し、互いに声を掛け合いながら、全員で最後まで走り抜くことができました。



阿品土谷病院

広島県実業団剣道大会 出場

2025年10月26日(日)マツダ体育館にて「広島県実業団剣道大会 第63回個人戦」が開催され、医療法人あかね会より4名出場しました。

◆試合結果◆

田邊 敬将 六段の部 優勝
大宅 健太 四段の部 準優勝

日々の練習の成果を発揮し、好成績を収めてくれました。



あかね会

ミャンマーより特定技能外国人7名受入

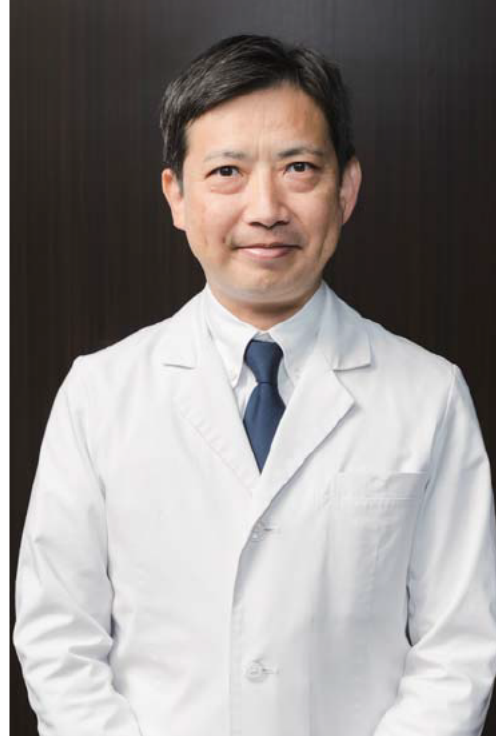
特定技能外国人として、2024年12月に3名、2025年10月に4名の計7名をミャンマーより受け入れました。現在、阿品土谷病院に勤務しています。

皆さん入国前に日本語能力検定の資格を取得しており、日本語によるコミュニケーションがとてもスムーズで、笑顔がとても素敵な方々です。



回復後の**生活の質**を重視 社会復帰を支える**医療体制**

心臓血管外科 部長 ふるかわ ともくに 古川 智邦



当院の心臓血管外科は、1973年の開設以来半世紀余りにわたって循環器系疾患の診療に携わってまいりました。2004年には、循環器内科・心臓血管外科・小児循環器科のよりスムーズな連携を目指して「心臓血管センター」を開設し、現在のハートチーム医療の先駆けとも言える体制を整えました。さらに、2014年にTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）を開始したことを契機に、麻酔科・看護師・臨床工学技士・放射線技師・理学療法士（リハビリテーション）・栄養士なども加わって、ハートチームの連携の輪が大きく広がりました。

現在は、毎朝の心臓血管外科ICUカンファレンスと週2回の合同カンファレンスを軸に、患者さん一人一人に対して、多職種が多方面からアセスメントをし、緊密に話し合い、最適な治療を提供すべく努めております。こうした取り組みにより、複雑・重症疾患や大きな手術を乗り越えて元気に回復される患者さんが増えただけでなく、多種多様な提案が活発にされることで治療方法や支援手段の幅が広がりました。その結果「命を救う」ことだけではなく、より高い「生活の質」の実現や、早期社会復帰など、個々の患者さんの生活・事情に寄り添った医療を提供できるようになってまいりました。

これからも、全てのスタッフが一丸となって、多くの患者さんに、より質の高い医療・より素晴らしい人生を提供できるよう、日々努力を重ねてまいります。

皆様ご存知の通り、近年の技術の進歩は、どの分野においても大変著しいものがあります。特に医療分野においては、『テクノロジーの進化に対し、いかにテクニック（技量）やチーム力（協働）を高めていくか』、私ども侵襲的治療を提供する者の命題と認識しております。

循環器治療の分野では、特にカテーテル治療の進歩が著しく、カテーテルを用いた低侵襲治療が可能な疾患が年々増加し、患者さんにとって福音となっております。一方で、カテーテル治療が不可能もしくは適応外であり、開心術（弁膜症手術など）や冠動脈バイパス術・大血管手術といった高侵襲治療を必要とする患者さんも依然として少なくありません。そうした患者さんに、いかに低侵襲な手術を提供するかが、我々外科医にとっての重要な課題となっております。

当科では早くから外科的心臓手術の低侵襲化に取り組んできた歴史があり、2000年以前から先天性心臓手術において[※]MICSを行ってまいりました。2013年からは成人弁膜症や冠動脈バイパス術でもMICSを開始し、現在はMICS認定医2名体制で年間約50例のMICSを行っております。この度、MICSにロボット手術という新たな選択肢が加わり、より多くの患者さんに対してMICSを提供できる体制が整いましたので、ご紹介申し上げます。

※MICS (Minimally invasive cardiac surgery) とは: 低侵襲心臓手術 胸骨温存の右もしくは左開胸小切開心臓手術

低侵襲手術のご紹介

当院のMICSの利点は、

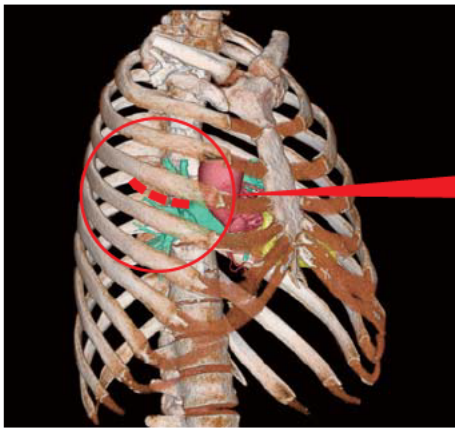
- ① 胸骨切開を伴わないこと
- ② 出血や胸骨骨髓炎・縦隔炎などの術後合併症を低減できること
- ③ 骨を切らないので術後運動制限がないこと
- ④ 創が小さく・側胸部にあって目立たないので美容的に良いこと などです。

安全であることは勿論、長期耐久性と早期社会復帰を目指した手術を心がけています。特に高齢者や体力が低下している患者さんに対しても、術後早期に離床できるよう手術を工夫し、退院後も「日常生活の活動性」を維持できるよう努めています。

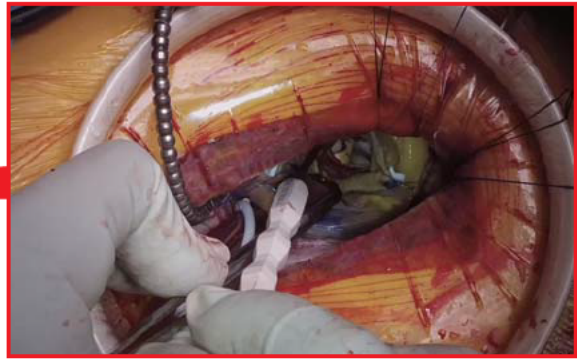
まずは、これまで実践してきた心臓血管外科の低侵襲手術をご紹介します。

■心臓弁膜症

僧帽弁・大動脈弁・三尖弁に右開胸MICS（皮膚切開6～8cm）手術を行ってきました。この分野にロボット手術の選択肢が増えます。



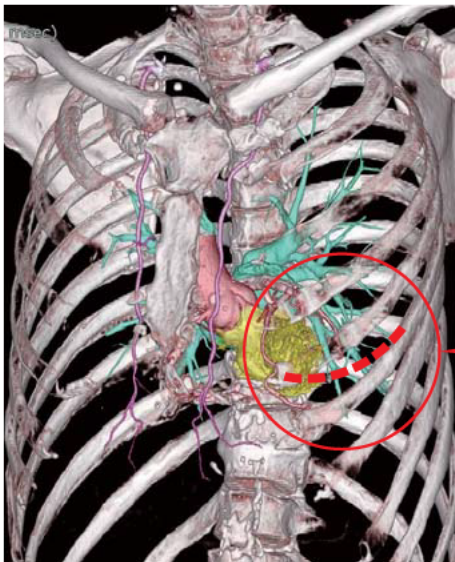
疾患部位(赤点丸)



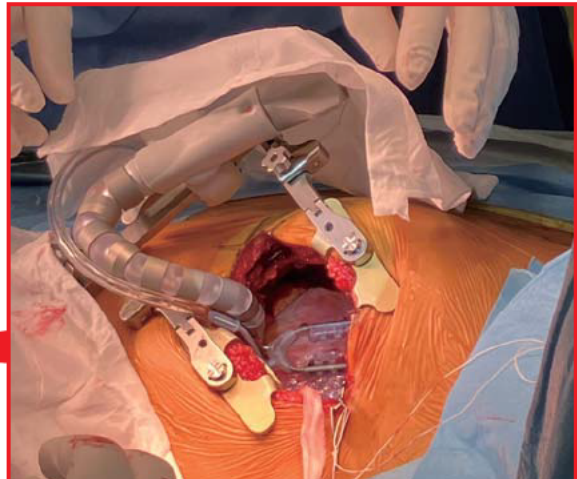
右第4肋間アプローチでの大動脈弁置換術

■虚血性心疾患(冠動脈疾患)

循環器内科とのカンファレンスで熟慮を重ね、より生命予後や術後回復を意識したデザインの治療をご提供できるように心がけています。最近では左開胸MICS（皮膚切開10～12cm）でのオフポンプバイパス術の割合が増えてきています。



疾患部位(赤点丸)



左第5肋間アプローチでの冠動脈バイパス術

■大動脈疾患

胸部大動脈にできた「こぶ（動脈瘤）」の治療法の一つに、「胸部大動脈瘤ステントグラフト手術」があります。

この手術では、足の付け根の動脈からカテーテルと呼ばれる細い管を挿入し、人工血管（ステントグラフト）を動脈瘤の位置まで運びます。そして、内側から動脈瘤を覆うようにして塞ぐことで、血液がこぶの部分に流れ込むのを防ぎます。

ステントグラフトは、金属製のバネ（ステント）と人工血管（グラフト）を組み合わせたもので、動脈瘤の破裂を防ぐ役割を果たします。

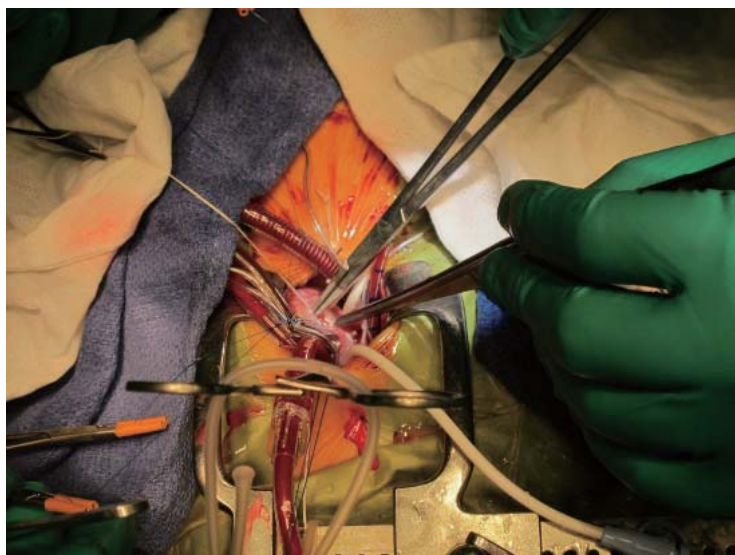
ステントグラフト手術では、高齢者や体力が低下している方でも耐術可能で、破裂や解離といった生命の危機から脱せられて元気に帰宅されるケースを度々経験します。



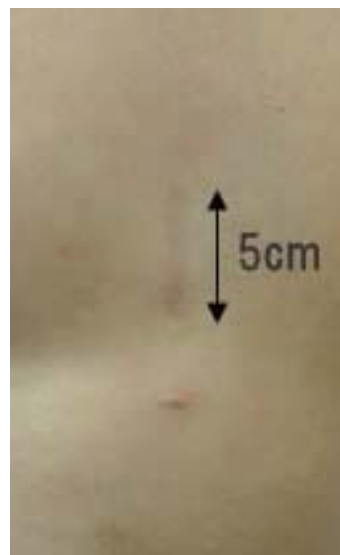
胸部大動脈瘤に対するステントグラフト手術

■先天性心疾患

生まれつきの心臓の病気で、多くは手術が必要になります。先天性心疾患の手術を行っているのは、広島県内では当院を含めた2施設のみです。いろいろな種類の疾患がありますが、心室中隔欠損症や心房中隔欠損症などの比較的単純な疾患については、美容面も考慮して、前胸部の小切開からの手術や右側胸壁からの手術を行っています。



小さな傷からの心室中隔欠損手術



実際の手術創(心房中隔欠損症:6歳)

手術ロボット「da Vinci」を使用したロボット手術のご紹介

現在、国内で保険適用されている手術ロボットは3種類あります(da Vinci〈インテュイティブサージカル社〉、hinotori〈メディカロイド社〉、Hugo〈メドトロニック社〉)。このうち心臓手術で使用されているのはda Vinciのみです。2018年4月からロボット弁形成術が2024年6月からロボット弁置換術が保険適用となり、普及が進んでいます。現在、全国約40施設でロボット心臓手術が行われています。

当院では、2023年にロボット手術プロジェクトチームを立ち上げて、まずロボット手術の経験が豊富な泌尿器科でda Vinci Xiを用いた手術を開始しました。心臓血管外科は、約2年間の準備とトレーニングでノウハウを蓄積し、ロボット心臓手術関連学会協議会や経験値の高い施設・医師との綿密な連携のもと、この度、満を持してロボット支援下心臓手術を開始いたしました。多くの皆さまからのご支援とご協力のおかげで、今日があること、心より感謝申し上げます。

ロボットMICSと従来MICS（胸腔鏡補助直視下および完全胸腔鏡下）との最大の違いは、従来MICSが外科医個人の技量に依存する手術であるのに対して、ロボットMICSはチーム力が重要となる手術である点です。ロボット手術ではConsole Surgeon（操縦担当）とPatient side Surgeon（ベッドサイド担当）の二手に分かれて手術を行うので、MICSを出来る外科医2人と両者の円滑な連携が必須です。外科医の手となるインストゥルメント（ロボット手術の器具）は先端が小さく・心臓の中で可動域の大きな関節を動かすことができるので、あらゆる方向に正確な運針が可能で細やかな手術を出来る上、著しく高度な手術技術は要しません。一方、従来のMICSは、先端が自由には動かない長い器具を使用し、手術となるため、運針が難しい箇所も多く、術者のより高度な技量が必要な場面にしばしば出くわします。すなわち、将来にMICSを安定して受け継いで行くためには、個人の技量に依存する従来型のMICSではなく、ロボットというテクノロジーをチームで引き継ぎ・進化していくことが、継続性・発展性のある未来志向の道だと言えます。

ロボット支援下心臓手術の恩恵を最も受けやすい患者さんは、胸郭が大きい方や扁平な方です。従来MICSでは、術野が深くて手術手技が難しかった患者さんに対して、ロボット支援手術では奥まで見えて、手（インストゥルメント）が届きやすくなります。一方で、胸郭が小さい患者さんはインストゥルメントポートの長さなどの関係から従来MICSの方が適している場合があります。将来的にはより多くの患者さんにロボット手術を適用出来ると考えますが、現時点では全てのMICSをロボット支援手術に移行できるわけではありません。そのため、当院では患者さん一人ひとりの状態に合わせて、最適な手術方法を選択し提供しております。

ロボット心臓手術では、前述の通り、現在はまだ心臓弁膜症しか保険適用がなく、その中でも特に僧帽弁疾患が主な対象です。まずは僧帽弁からスタートして、安全性を確保しながら三尖弁・大動脈弁へと進める予定です。さらに、将来期待される保険適用の広がりに合わせて、心臓腫瘍や冠動脈手術などでも、ロボット手術の恩恵を受けられるようになる未来を思い描いております。





地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

には耳鼻科・内科心臓血管クリニック

診療科目／耳鼻咽喉科、アレルギー科、内科、循環器科、心臓血管外科

院長 岡田 明子 副院長 岡田 健志

当院は2010年3月にには耳鼻咽喉科アレルギー科クリニックとして開院しました。2020年4月に副院長が県立広島病院から合流し、には耳鼻科・内科心臓血管クリニックと改名し現在に至ります。当クリニックでは、院長が耳鼻咽喉科全般また舌下免疫療法をはじめとしたアレルギー領域の診療、睡眠時無呼吸症、副院長が循環器心臓・血管系疾患を中心とした全身診療をしています。地域の小児からご高齢の幅広い年代の方々に来院して頂いています。院長が耳鼻咽喉科医として土谷総合病院に勤務させて頂いていたことや、副院長が山田先生、村岡先生に昔からお世話になっていることから、気兼ねなく患者様を紹介させて頂いています。循環器疾患においては、入院精査が必要な方も、迅速に対応いたしており本当に助かっております。感謝申し上げます。今後とも頼りにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



診療時間／月・火・水・金曜9:00～12:30、14:30～18:00 土曜9:00～14:30 休診日／木曜日、日曜日、祝日

住所／〒734-0024 広島市南区仁保新町2-5-32 1階 TEL／082-890-8088

公式サイト／<https://niho-jibika.jp>



医療法人あかね会

土谷総合病院

〒730-8655 広島市中区中島町3番30号 TEL:082-243-9191(代)

■阿品土谷病院 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号 TEL:0829-36-5050(代)

■大町土谷クリニック 〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号 TEL:082-877-5588(代)

■中島土谷クリニック 〒730-0811 広島市中区中島町6番1号 TEL:082-542-7272(代)

■介護老人保健施設シエスタ 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号 TEL:0829-36-2080(代)

■在宅事業部(介護サービス部門)

土谷訪問看護ステーション

中島 TEL:082-544-2789 西広島 TEL:082-507-0855
大町 TEL:082-831-6651 出汐 TEL:082-250-1577
佐伯 TEL:082-925-0771

土谷ヘルパーステーション

光南 TEL:082-545-0311 西広島 TEL:082-507-0877
大町 TEL:082-831-6654 出汐 TEL:082-250-5080
佐伯 TEL:082-925-0770 戸坂 TEL:082-502-5205
可部 TEL:082-819-2250 矢野 TEL:082-820-4825
阿品 TEL:0829-20-3585

土谷居宅介護支援事業所

光南 TEL:082-504-3202 西広島 TEL:082-507-0866
大町 TEL:082-831-6653 戸坂 TEL:082-502-5215
佐伯 TEL:082-925-1550 阿品 TEL:0829-20-3721
矢野 TEL:082-820-4835

土谷デイサービスセンター

光南 TEL:082-544-2885 大町 TEL:082-831-6600



スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

土谷総合病院

検索

<https://www.tsuchiya-hp.jp/recruit/>



akane Instagram

あかね会公式のInstagramアカウントです。法人の取り組み、職員の活躍、採用情報など更新しています!



医療法人 あかね会

本部事務局

〒730-0811
広島市中区中島町3番25号
TEL:082-245-9274
<https://www.tsuchiya-hp.jp/>

